

平成 29 年度 第 2 回 富里市子ども・子育て会議 議事録

1. 日 時 平成 29 年 11 月 6 日（月） 13 時 00 分～14 時 25 分

2. 場 所 富里市役所 3 階第 3 会議室

3. 出席者 大木みわ委員、横山智志江委員、荒野峰之委員、
渡邊薫委員、勝又千恵子委員、龍岡達子委員、
宮川朱実委員、荒居久子委員、藤崎武彦委員
高嶋理恵委員

（欠席者）中島耕一委員、渡邊由美子委員、越野記代子委員
西澤譲一委員

4. 傍聴人 0 名

5. 議 題

- (1) 富里市子ども・子育て支援事業計画見直しについて
- (2) 家庭的保育事業等設置・認可に係る意見聴取について

6. 会議の経過

事務局：お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

会議を始めるにあたりまして、本日の資料の確認とスケジュールについて御説明させていただきます。本日の資料といたしまして、事前に郵送させていただきました資料を含めまして、次第・資料 1・資料 2－1・資料 2－2・前回の議事録・あい・あい保育園富里園のパンフレット・日吉台幼稚園のパンフレットでございます。資料 2－1 につきましては、事前に送付させていただいておりましたが、一部差し替えがございましたので、新たにお手元に配布させていただきました。また、日吉台幼稚園のパンフレットにつきましては、本日欠席ですが、子ども・子育て会議の委員であります日吉台幼稚園の中島園長よりお預かりしたものです。委員の皆さんへ配布させていただきます。次に、本日のスケジュールですが、この後会議を始めさせていただき、2 時過ぎに会議を終了し、その後、あい・あい保育園富里園の見学を予定しております。2 時 15 分頃市役所を出発し、2 時半頃から 3 時まであいあい保育園の見学を行います。会議の終了後に改めて御案内しますのでよろしくお願い申し上げます。資料につきまして、不足はございませんでしょうか。よろしければ、会議を始めさせていただきます。会議に先立ちまして、越野委員、中島委員、西澤委員、渡邊委員が欠席となっておりますが、14 名中 10 名の委員の方々に御出席いただいておりますので、富里市子ども・子育て会議条例第 6 条第 2 項により、本日の会議は成立しておりますことを御報告申し上げます。

それでは、ただいまより、平成 29 年度第 2 回富里市子ども・子育て会議を開会いたします。まず、会長に御挨拶をいただきたいと思います。龍岡会長よろしく願いいたします。

会 長：今回で平成 29 年度 2 回目の会議になります。今回の衆議院選挙でも、子育て支援および教育などが焦点になっておりました。私も必要なところには十分な支援を向けていただきたいというのが思いです。最近の千葉県の広報紙にも子育て支援の記事が載っており、ここの部分を支援していかなければいけないだろうと思います。今回の議題は、富里市子ども・子育て支援事業計画の見直しについて、それともう一点、家庭的保育事業等設置・認可に係る意見聴取についての内容となっております。

皆さんのきたんのない御意見をいただきながら進めたいと思いますので、よろしく願います。さらに、今回の会議が、この委員で行う最後の会議となります。よろしく願いいたします。

事務局：ありがとうございました。

それでは、富里市子ども・子育て会議条例第 6 条第 1 項により、会議の議長を会長にお願いしたいと思います。龍岡会長よろしく願いいたします。

会 長：それでは、議題に入らせていただきます。お手元の資料にございます 2 件、最初に議題の（１）「富里市子ども・子育て支援事業計画見直しについて」事務局より説明をお願いします。

【事務局から説明】

会 長：事務局より説明がございましたが、御質問・御意見等ございませんか。

委 員：38 ページ、学童クラブの充実というかたちで、民間活力の活用を含めという項目がございますが、具体的にはどのような方法を予定しているのかお聞かせいただければと思います。

事務局：現在、七栄地区の学童につきましては、各小学校には学童クラブの設置はございません。若草児童館にて学童クラブをお願いしている状況でございますので、今後七栄地区の学童クラブの必要性について十分に考えなければいけません。公設で実施をするのか、現在の民間の活力を活用していくのかというところも踏まえまして、今後検討していかなければいけないと考えております。

委 員：38 ページの学童の件ですが、最低賃金で募集となると、なかなか人が集まってこないという現状がありまして、この間、県の次世代会議でも委員をさせていただいている中で、各市町村で、指導員のお給料の格差がかなりあるということが、他の委員さんからも出たときに、富里市でも、財政も大変な中

ですが、充実ということでやっていただいていると思いますが、指導員のお給料も考えていかないと、指導員は責任もあるし、勤務時間も少ない中での指導員の募集となると、なかなか来る方がいなくて、困るところもあるので、県のほうにも、補てんはしていただきたいという発言はしてきました。財政が厳しい中で学童クラブとかも一生懸命つくっていただいているので、本当にありがたいですけれども、そういう面も充実していかないといけないと思いますので、富里市だけではなくて県とか国のほうにもそういう要望をしていくべきだと思っていますので、よろしくお願いします。

事務局：現在、学童クラブの委託費には、国の交付金も活用させていただいております。国の考え方も、指導員の処遇改善というところでは、賃金をアップしなければいけないということも謳われていますので、財源という部分は課題ではありますが、来年度予算、指導員の賃金部分についても少しでも改善できるように、予算を組み立てている最中ですので、決まり次第お知らせしたいと思っております。

会 長：いかがでしょうか。少しでも富里市に転入していただいて子育てをしていただくためには、環境を整えることが必要になってくるのではないかと思います。三里塚に大学病院ができますから、人口としては 1,000 人くらい増えるという予想なので、成田ではなくて、ぜひ富里にというところです。賃金等も含めて政策等の内容も充実している魅力的な富里になってもらいたいなと思っていますので、ぜひ検討してください。他に御意見ありませんか。

委 員：子どもの数は減っていて待機児童数が数えるくらいで、あの子とあの子によって富里は言えるくらい把握しておられると思います。すごい努力だと思います。計画を見ると、もっとこれをやります、こういう事をやりますとなっています。それはとても細やかなサービスで良いと思うのですが、その時に、それだけ人を新しくスタッフとして採用はできないと思います。そうすると、今ある課で工夫して中身を充実させるという感じになると思いますので、現場の方たちの努力によるものと思います。私は、富里は細かいところまで見えているところだと思いますので、きっと具体的な工夫はおありだと思います。たくさんサービスをなさるのは良いと思います。ありがとうございます。

委 員：先ほど会長から、環境を整えてどんどん人が集まればいいですねというお話がありました。活気づけばそれだけいいことだと思いますが、浩養地区等は学童クラブの指導員が少ない一方、私は富里小学区なので富里小の話になりますが、学童クラブの定員がほぼ埋まっているようです。七栄小のまわりを見ていただくと、家がどんどん建っています。ということは、家を建てる世代というのは、小さい子がいらっしゃる世代で、まだ小学校に上がっていない子がいるわけです。子どもの人口は減少傾向にあります、富里小に限って

は現時点で次のクラスを受け入れる教室がもうないんです。私は今富里小の評議員をやっていますが、来年の教室をどうしようか、教室がなくてどうしようという事も実際上がっています。そうすると、その問題を、プロジェクト委員会のような違った委員会を立ち上げて、それだけのことについて考えていかないといけないと思います。富里の中心の学校、中心の地区のはずなのに、学童クラブに入りにくいといったことが情報で流れてしまうと、せっかく富里に住もうかなという人が離れてしまう。じゃあ三里塚にしようかな、とか、成田に流れていってしまう。せっかく富里市でいろんな良いことをやっていこうという中で、あまりにも広く浅くやりすぎてしまうと、富里に住みたいが諦めるということにもなる。子ども全体をみる、子どもを育てる親全体を見るというのはたしかに素晴らしいことですが、もう少し地域ごとに深く考えていかないといけないと思います。

事務局：学童クラブをどうしていくのかというところも、議論になっていますが、本計画は31年度までとなっていて、来年度からは次期計画の策定に入っていきます。その次期計画の中で学童クラブについては、具体的に考えていかねばいけないということから、今回の計画の見直しの中では検討とさせていただきます、次期計画では具体的な案がお示しできればと考えております。

委員：学童を待っている世帯は来年再来年というよりも、今日明日の問題なので、なるべく早くお願いします。私も微力ながらそういったことに関しては御協力させていただきますので、よろしくお願いします。

会長：十分に地域性を考えていただいて、過密地区過疎地区それぞれの問題があると思いますので、それをなるべく早くという御意見ですね。他にいかがでしょうか。

委員：富里市の乳幼児教育や子育て支援が、数年の間にすごく高まって密度も濃くなり、子育てしやすい市になりつつあると思っています。その中で、富里市障がい者基本計画、障がい福祉計画などがありますが、障がいを持ったお子さんや、障がいと名前がつかないグレーゾーンのお子さんをお持ちの保護者の育児不安がすごく大きいです。障がい児、それから健常児と分けるということではなく、障がいを持ったお子さんや障がいがあるかもしれないお子さんが、他の子ども達とより一緒に過ごせるように、子ども達のなかでそういう子ども達が育てられるというような環境がもっと具体的に計画の中に出されていけるといいかなと思っています。もうひとつは、富里市男女共同参画計画。男女共同参画の世の中にしていくためには、乳幼児期から男の子は男の子、女の子は女の子ではなく、性別にとらわれずに育てることも必要だと思います。小学校では、混合名簿はずいぶん前から取り入れられているのですが、乳幼児教育の中ではまだ「女の子集まれ」「男の子集まれ」というよう

な部分が多いのですが、保育園・幼稚園や子育て支援に関するところでの男女の棲み分けをできるだけ男女の差別・区別にならないような関わり方にする必要があります。そのためには、そこで働く職員の研修とか啓蒙が必要だと思うのですけれども、具体的に計画の中に盛られてくるといいかなと考えています。よろしくお願いします。

事務局：貴重な御意見をありがとうございました。いただいた御意見を参考にしながら、次期計画の策定に取り組ませていただきたいと思います。ありがとうございます。

会 長：ぜひその具体案を考慮していただきたいということでしょうか。他に御意見・御質問ありませんか。

委 員：49 ページに、民生委員児童委員及び主任児童委員の活動の充実ということで出しているのですが、ここ一年地区社協を含めて、民生委員活動の中で子育て支援も例年ずっとやっているのですが、最近参加数が激減しました。これはどういうことだろうかというなかで、子育て支援課のほうで保育園とか子育て支援センターが充実してきて、そちらのほうへ通っている親子がすごく増えています。この間、私も少し見させていただいた時にも、たくさんの方が利用されていて、うれしい悲鳴ですね。前は民生委員のほうで子育て支援をすると、多すぎるくらい本当にたくさんの方が来ていました。それが、今年になったら本当に激減して、多い時で20組くらい、普段だと5～6組から7～8組ぐらいに減ってきました。というのは子育て支援センターが週に何回か時間を決めて、0歳児など分けてやったださっているのが、すごく効果が上がっているのではないかなと。私たちもそろそろ、民生委員での子育て支援をやらなくてもいいくらいになってきたねという雰囲気になっているので、そこは評価していいと思っております。ありがとうございました。

事務局：ありがとうございます。参考までに、2月にこども館内に支援センターをオープンしましたが、従前の葉山保育園内で実施していた子育て支援センターの月別の利用人数はだいたい700～800人だったところから、こども館に移してから1,000人を超えています。さらに向台の支援センターも開所しまして、ここがだんだん周知されてきたようで、やっぱり700～800人程度の月別利用人数となっているようです。だんだん利用者数が増えてきているという感じは、私ども担当でも実感しているところです。

会 長：意見ですが、行かれる方たちに関してはもちろん活用していただいているのですが、グレーゾーンではないですけど、行けない・行かない方たちへの支援の部分で、やはり民生委員の方、児童委員の方に活躍していただきたいなと思います。行けない子たちの問題が出てくると思います。よろしくお願いします。

します。他に御意見等ないでしょうか。

委員：意見ですが、54 ページ子育て世代包括支援センター設置の検討というところで、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援と書いてあります。私はファミリーサポートセンターを担当しています。ファミリーサポートセンターは、送迎や一時的なお預かりはできますが、妊婦さんや出産後の方の家庭のお手伝い・産後の援助・ヘルパー的なことなど家事援助というのはできません。ただ、今若い方たちだとお母さんやお父さんもまだ若くて、仕事をしている家庭が多く、家事援助をしていただけないかという声もやっぱりあります。介護などはヘルパーさんがいらっしゃいますが、産後などに民間のベビーシッターさんにはとても高くて頼めないという声があります。そんなに長い間は必要ありませんので、1～2週間くらいで、産前産後に特化した家事援助などをファミリーサポートセンターでやるか、包括でやるか、考えていただけたらと思います。

事務局：子育て世代包括支援センターにつきましては、今後設置に向けてこれからどう体制づくりをしていくのかということも含めて、まずはスタートしたばかりですので、その中で、いろいろこういった御意見があったことも踏まえて、検討していければと思っています。

会長：他に御意見・御質問は。御意見で構いませんがいかがですか。

委員：私の娘は子どもを3人産んで育てながら働いています。横浜市ですが、もう30年以上前に、市のサービスでとても助けてもらっていました。こういう形もあるのかと思ったのですが、たとえば授乳。おっぱいがうまく飲めない赤ちゃんも、授乳のやり方などです。保育士の資格を持っていて、今仕事を休んでいて、自分の家で子どもを育てながら、どうぞうちへ来てくださというサービスがありました。私は手伝いに横浜まで行ったのですが、車にお母さんと赤ちゃんを乗せてその人の家に行って、そこの家の赤ちゃんの面倒を見たりしながら待っていると、そこでいろいろ手当してくれました。子育て中で働けない保育士の資格所有者が、働きたいのに働けないという状況をうまく活用されていると思いました。それは市でやっている公的なものよりも、もうちょっとグループ的なものだったかもしれません。今ではこの辺でもあると思うのですが、ベビーベッドや赤ちゃん用のバスタブなどは、ほんのちょっとの時期しか使わないですから、そういうのをどんどん皆でぐるぐる貸し借りするシステム等、皆で助け合う組織みたいなものをしていました。その延長で、靴や洋服もぐるぐるまわってくるし、わりと若い人達同士で助け合いましょうというのが、もう30年前ですけどありました。きっと資格があるのに家から出られない人たちがいらっしゃるかもしれません。人をちゃんと雇うのは大変だけど、自分の家に、というのは法的に難しいこ

とがいろいろあると思いますが、いろいろなユニークな工夫をいっぱいしてもいいかなと。富里に集まってきている若い人たちが、自分の生まれた地方にはこんなのがあったよというのを集めて、いろいろな工夫はできるかもしれないと思いました。

会 長：いろいろなアイデアとサポートの仕方とか、どういうところをサポートするのかというアイデアを集めていただいて。人材も潜在保育士さんもいっぱいいらっしゃるでしょうから、その辺の掘り出しも工夫しなきゃいけないところかなと思います。

委 員：保育士の採用について、お給料が安くて、これじゃ家族は養えないくらいとても安いになっていますよね、保育士とか幼稚園の教諭とか。市川市では議会で決めて、給料を上げるのではなく給料プラス4万円支給するというのを聞きました。この辺ではどうなっていますか。男の人で本気で保育士の資格を取ったのに、結婚したらこれでは生活していけないということで辞めて、長距離トラックの運転手になっている卒業生がいます。男の人は結婚して家族を持ったら生活していけないお給料で、保育士さんというのは難しいかなと思ったりもします。

事務局：保育士さんの処遇改善、給料についての御意見だと思いますが、富里市では、9月議会で処遇改善ということで、県の基準額と同額の2万円の補助をすることに決まりました。

会 長：他にいかがでしょうか。

委 員：教育環境ということで、幼稚園のほうで一時預かり事業を充実ということで書いてあります。40ページです。今の幼稚園をすぐ隣で見ている、とても子ども課で工夫していただいて、一人学級担任のほかにも非常勤職員の方に来ていただいています。昼間もいるし、預かり保育の時には残ってやってくださっています。人材を増やすわけではなく、すごく工夫して考えてやっていただけるのは、ありがたいと思っています。ですが、これからサービスを拡充していくにあたっては、何とか工夫していただいて、職員の負担軽減をしていかないといけないと思います。幼稚園の先生も生身の人間・生身の体ですので、健康を害してしまったら教育もできませんので、そのことを私はいつも考えております。今小学校に勤務しておりますが、小学校の先生たちについても、職員の働き方改革が言われています。保育園の先生よりも幼稚園の先生のほうが楽じゃないかという人もいるのですが、とんでもないことで、幼稚園教育、先生方はすごく頑張っています。預かり保育等いろいろなサービスをやるのはすごくありがたいのですが、今までと同様工夫して、人材不足にならないように、負担がかからないようにやっていただけたらありがたいなと思います。以上です。

事務局：確かに保育士さんや幼稚園の先生方の負担は重いものと感じますので、今後の検討材料とさせていただきます。

会 長：他にいかがでしょうか。

委 員：先ほどの、子どもを取り巻く環境・子どもを育てる親の環境もそうですが、今おっしゃったように、子どもに接する人たちすべての大人・職員・民生委員の方等周りの人間の環境も大事だと思います。お金のこともそうですが、時間的な拘束や仕事の量なども、どこかでしっかりと見直してあげて、働くにあたって良い環境づくりができるように、ぜひ努力していただきたいなと思いました。

会 長：他にいかがでしょうか。

それでは富里市子ども・子育て支援事業計画見直しについては以上といたします。議題の（２）です。家庭的保育事業等設置・認可に係る意見聴取について事務局より説明お願いいたします。

【事務局から説明】

会 長：御意見・御質問等ありませんか。前回の問題点はクリアされたという内容だと思いますが、いかがでしょうか。

委 員：質問ですが、移行後の運営状況のサービス内容の所定定員が 0 歳児・1 歳児・2 歳児とありますが、なぜ 4・5・6 歳児はないのでしょうか。

事務局：小規模保育施設の認可でございますので、0～2 歳となっております。

委 員：なぜ小規模保育に移行されるのでしょうか。

事務局：ちびっこランドとして平成 24 年から認可外保育事業を行っておりまして、そこには保育所に入れない児童が通っております。認可外なので保護者の負担が大きいこともありまして、認可を取得して給付を受けながら事業を進めたいということで伺っております。

会 長：0～2 歳児だけ小規模保育事業をして、他の部分は認可外で運営されるということですね。

事務局：はい。

委 員：前回の「×」や「△」の部分が順次クリアされていますが、この短期間でこれだけクリアして、なぜ認可が必要なのかが疑問でした。富里市はこの会議でもやっているとおりの、質の高い保育・教育を目指していく中で、「△」が「○」になったり「×」が「○」になったから認可をする、というような簡単なものではないと思いますので、細かい部分は他の委員の皆さんも質問していただければと思います。なぜ認可が必要かという点については、私なりに理解したつもりです。

会 長：御意見ございませんか。

委 員：前回の時、私も同じ質問をした覚えがあります。4歳児・5歳児は見捨てるのかというような質問をした覚えがあるのですが、私はこの設置者の方と直接話をしたことがあります。成田のスカイタウンや公津の杜でも保育園を運営していて、保育園としてはだいぶ大規模にやっている方です。前の子ども・子育て会議でその話をして、なぜ赤字なのにとすると、やはり1歳児・2歳児・3歳児の子どもを預けたい親が、認可外だと全額自腹で、認可していただければ市から補助金がいただけるということで、子どもを預けたいけれど全額自己負担だと預けられないという人を、認可をもらえれば預かれるということで認可が欲しいという意見は聞きました。そのように私は理解しています。私も実際に前回の時には、これはおかしいのではないか、これは認可しないほうがいいのかという意見を持っていました。この数年間でこれだけ改善してきたというのは、すごいのかなと思っております。以上です。

委 員：このたった1年2年で赤字が黒字になっているということは、相当な努力をされたと思います。ただ、先ほども働いている人に対しての報酬等、そういったことを皆さんでお話をしましたが、ことり保育園をホームページで拝見しましたが、日吉台・勝田台・公津の杜・成田、そのすべての園長先生がこの方です。施設の代表者は一人の人間ですから、成田も面倒を見て勝田台も、というと、同時にトラブルがあったらどうするのかなど、どうしても細かいところが気になるというのと、この方は英語が堪能で、日吉台で英語の教室もやっていたらいい。園長もやって、英語の教室もやってというのは、果たして可能なのかどうか。基準は満たしているのかもしれませんが、その園の内容・職員の境遇等、それらを理解したうえで認可しなければいけないと思います。ただ単に、これをクリアしたから認可しますというのは、少し納得いかないかなと思いました。この方は一生懸命やっていたらいいと思いますが、子どもを預けている親目線からすると、そんなに経営は甘くないと思いますので、以前はフランチャイズだったということを聞いて、ちょっと引かかりました。志はすごく高いかもしれませんが、まずはもう少し腰を据えて、じっくりと経営を頑張っていた方がいいのかなと思います。ぜひ慎重に議論したいと思いました。以上です。

事務局：園長ではなく施設長といいます。施設長は代表者の方ではなく、別の方が配属されることになっております。

会 長：園長先生が別にいらっしゃるということでいいのでしょうか。兼任じゃないということですね。

委 員：日吉台に限ってですか。勝田台と公津の杜など4園あって、ひとつの園はクリアしたとして、あとの3園はどうなんでしょうか。

事務局：他の３園についての確認はとれていませんが、日吉台につきましては別の方ということになります。

委員：私は認可になるほうが良いなと思っています。同じ富里市で子どもを預けている施設として、特に乳児の待機がいるなかで認可がないところというのは、市の管轄ではあるけれど直接的な指導はできないですね。ですから、認可を受けることによって条件整備ができて、市がお金も出すけど口も手も出せるというふうになって、他の認可を受けている保育園と同じ待遇を利用者が受けるということは、私はいいことかなと思います。小規模で経営が大変だから複数持っているのかなと思うし、子どもが入らないと赤字になってくると思うので。今の富里市では乳児の待機ゼロに向かっているもので、逆に言うと、認可をとってしっかり管理監督していただきたいなと思います。

委員：個人的にこの方を知っております。先ほど管理者が園長で全部一緒であるとおっしゃっていましたが、実態としては大きいグループの理事長のような感じです。各施設に全部責任者、園長先生的な方はいます。日吉台に関してはいます。日吉台で０歳児を預けるところは、今まで認可のところがありませんでした。葉山・向台は出来ましたが、北地区には全然ない。でも預けるところがないから、それこそ駅前のスカイタウンにあることり保育園に預けに行っている方もいると聞いております。北地区の人間としては、ここで認可を出していただけるのが一番ありがたいというのは実情であり、私の希望ではあります。地域にも非常に協力的な保育園でありまして、メイン通りにヤマボウシの木を植えているのですが、そこにも個人的にこの先生は自分で木を植えてくれたり、子どもたちと一緒に花植えをしたり、非常に地域も巻き込んでいます。この間は自治会のお祭りに子どもたちを連れて顔を出してくれました。非常に地域ともうまくできている保育園ではあります。私の個人的な意見でありますけれども、そういう形です。

委員：私は北地区ではないので、そういった細かいところは見えないんです。ただ、認可というのはそんなに簡単にあげるものじゃないでしょうということです。認可をあげることによって、認可保育園が増えて、認可をするから口も出せるというのはよくわかります。だから認可を出すのであれば慎重にならなければいけないし、富里市が行政として監督責任を、務めを十分に果たしていただきたいなということでございます。

事務局：市といたしましても、条例等の基準に適しているものであれば、認可をする方向で考えなければいけないと思います。認可された後もいろいろな関わりがありますが、ひとつの例としては指導監査にも入れますし、園を管理監督できるという利点があると思います。

会長：いかがでしょうか。実態もしっかり考えていただいてということですね。

委員：施設の関係ですけれども、間仕切りを取ったので対応出るということでしたが、間仕切りを取った上で子どもの人数が減ったのでＯＫということなのでしょうか。間仕切りを取ったくらいで本当に平気なのかなという心配があるのですが。

事務局：今現在まだ工事は行われておりません。今月下旬に行う予定です。この間仕切りの中は事務室として利用しております。間仕切りは後付けで仕切られたもので、工事が伴いますがそれを取ることによって、この人数は基準をクリアできるということです。11月2日に変更の申請がなされましたが、それに伴って子ども課の職員で再度確認をしたところでございます。今月下旬に間仕切り工事が終わりましたら、改めて確認したいと思います。

会長：他にいかがでしょうか。それでは、この家庭的保育事業施設設置・認可に係る意見聴取については以上といたします。以上で本日のすべての議題が終了いたしました。今回の会議が現委員での最後の会議となります。最後に委員の皆様から一言ずつご意見をいただきたいと思います。

【委員挨拶】

会長：委員の皆様2年間本当にお疲れ様でございました。私もいろいろな刺激を受けまして、本当に子どもたちを真剣に支えている人たちがいるということに刺激を受けております。ありがとうございました。さらに子ども子育て会議は今後も継続して開催していきますので、引き続き委員になられる方におきましては御協力をお願いいたします。また事務局につきましても、今後国の動向を注視して、情報の収集、整理、提供等よろしくお願いします。これにて議事を終了して、事務局にお返しいたします。

事務局：それでは次第の3、その他になりますが、皆様から何かございますでしょうか。ないようですので、最後となりましたが、健康福祉部長の尾崎より委員の皆様に御挨拶申し上げます。

【健康福祉部長挨拶】

事務局：以上をもちまして平成29年度第2回富里市子ども・子育て会議を終了とさせていただきます。お疲れ様でした。